

てお書き下さいました。そしてその時、私も静岡県人ですし、貴女も静岡県で同県人です。同県人のよしみで紹介の労をとつてあげましょうね」とおっしゃって下さいました。御手数をおかけ致しました御蔭様でそれからしばらく愛育会で勉強させていただく事ができました。

何かの時に、入学試験の面接の時には一人で日本中の幼稚園をしょって立つ様な勢いでしたがこの頃はどんなですか」とおっしゃっておわらいになった事がありました。が今ではそんな小さい思いも大変なつかしいものとなってしまいました。

先生の御足のあとをたどりますにはあまりにも力のない欠点の多い私でございますが、少しでも御理想にそって幼児の幸せのためによいしもべとなる精進を、今日も明日も続けさせていたたく事だけが、御恩にむくいる唯一の残された道となつてしまいました。何時までもいつまでも先生がいて下さる様に思つて甘えておりましたが、倉橋先生はもう私共のグループの中にはふたたびおいでいただく事がなくなつてしまいました。

X X X X X

## 倉橋先生のこと

牛島 義友

倉橋先生は詩情豊かな教育者であられたが、又科学的研究の最もよい理解者であられた。幼児教育界がとかく経験主義に立ち、科学的研究から取残されていることを最も苦にされたのは先生であつた。

東京女子高等師範学校では共通科目である教育学を受持たれていたもので、他の化学や国語のように専攻の学生が居らずしたが、教育や心理学の研究の地盤がないことを遺憾に思わせていた。

したがって大学への昇格の機会に児童学科の創設の構想を立てられた。女子大学において心理学が独自の研究を發展させるには児童学が最もふさわしいと考えられたからである。ところが、従来このような講座が無かつたために、新たに

創設するために非常に困難に遭遇した。人事的に言っても、一方では他学科の先生に退いてもらい、児童学の教育を新たに割込まねばならないし、場所的に言っても、本館の中では研究室は割当てられず、幼稚園の中に二室を割いていただいで、辛うじて創設が認められた。

この時の先生の御苦心は、長い教職生活の中で一番心労されたことであろう。あの温厚な学内の信望高い老教授が、この問題のために方々から非難され、中傷され、侮蔑の言葉さえ度々受けながらも、先生はじっと耐えて、ひたすら児童学科の成立のために苦勞をなされた。この心勞が先生の御健康を著しくそこなつたと云えよう。

このように苦心して創設された児童学科で、しかし先生は一度も講義をなさらなかった。既に健康がそれを許さなかつたと云うよりも、初めから先生は教授として華々しく活動される御意志は無かつたことと拝察している。全く私を無にして、日本の児童学の科学的基礎を確立するために最も尊い奉仕をなされたのである。

又先生はいわゆる科学的研究には飽き足らず高度の洞察的研究を要求された。わかりきった統計や非生産的な研究に対しては風刺をもって急所をつき、先生の優れた経験のちえによつた研究方向を指示された。研究発表会の時には先生の批評や感想の方が研究よりよほど面白く、啓発されたもので

ある。

もし二十年早く児童学科が創設されていたならば、倉橋學派が生れ、日本の児童研究は世界でも最も質のよいものが出来ていたと思う。

## 子どものために 先生方のために

及川ふみ

大正六年、倉橋先生が東京女子高等師範学校附属幼稚園主事になられて、先ず保育の実際について変つたことの一つに「会集をやめましょう」ということであつた。「免に角幼稚園の一日の保育は、自由遊びから段々まとまったものになつていくべきだと思ひます。自由遊びから仕事へというのが保育課程の本質だと信じます」

これは倉橋先生がその著幼稚園真諦に会集について意見をのべられているのであるが、その当時幼稚園の先生の新米と